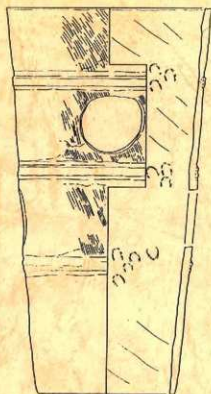


船塚遺跡の調査

(太子山南麓遺跡第2次調査)

—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—



1998年3月

太子町教育委員会

船塚遺跡の調査

(太子山南麓遺跡第2次調査)

—宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—

1998年3月

太子町教育委員会

本文目次

例言

調査に至る経過	2
調査の概要	2
住居址 1	4
住居址 2	5
住居址 3	6
1号墳	7
2号墳	11
まとめ	14

挿図目次

第1図 周辺遺跡分布図	1
第2図 調査位置図	2
第3図 調査区設定図	2
第4図 遺構配置図	3
第5図 住居址1実測図	4
第6図 住居址1出土遺物実測図	4
第7図 住居址2実測図	5
第8図 住居址2出土遺物実測図	5
第9図 住居址3実測図	6
第10図 住居址3出土遺物実測図	6
第11図 1号墳実測図	7
第12図 1号墳出土遺物実測図(1)	7
第13図 1号墳出土遺物実測図(2)	8
第14図 第1次調査出土埴輪実測図	10
第15図 2号墳実測図	11
第16図 2号墳出土遺物実測図	12

表目次

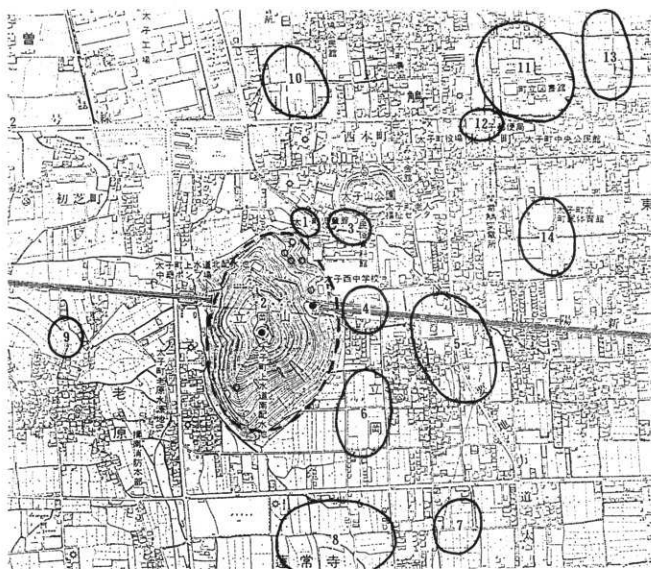
表 1	住居址 1 出土遺物観察表	4
表 2	住居址 2 出土遺物観察表	5
表 3	住居址 3 出土遺物観察表	6
表 4	1号墳出土遺物観察表	9
表 5	第 1 次調査出土埴輪観察表	10
表 6	2号墳出土遺物観察表	13

図版目次

図版 1	船塚遺跡全景
図版 2	上 調査地全景
	中 住居址 1～3
	下 住居址 1
図版 3	上 住居址 2
	中 住居址 2 側壁柱穴
	下 住居址 2 竈
図版 4	上 住居址 3
	中 1号墳
	下 1号墳周溝土層断面
図版 5	上 2号墳
	中 2号墳周溝南東コーナー土橋
	下 2号墳周溝土層断面

例言

1. 本書は、兵庫県揖保郡太子町鷗字船塚 212 番地に所在する船塚遺跡の発掘調査概要報告書である。
2. 調査は、宅地造成工事に伴うもので、太子町教育委員会が主体となり、同社会教育課三村修次、海野浩幸が担当した。
3. 調査は、平成 8 年 12 月 19 日から 12 月 27 日にかけて実施した。
4. 座標・水準は、それぞれ国土座標第 V 系及び T.P. を基準とした。
5. 遺物観察表の色調は、日本色研事業株式会社発行の「新版・標準土色帳 1992 年版」による。
6. 調査にあたっては、太子町シルバー人材センター、三宝建設株式会社の協力を得た。
7. 国土座標測量は喜多村測量株式会社、航空写真撮影はワールド航測コンサルタント株式会社に委託した。
8. 整理作業にあたっては、井上道子、岩村千穂、改発法子、小山真紀、藤井昭子、中村豊子、諸石厚子の協力を得た。（敬称略）
9. 本書の執筆、編集は、三村修次、海野浩幸が行なった。



第1図 周辺遺跡分布図 (1/10,000)

- | | |
|------------|------------|
| 1. 船塚遺跡 | 8. 蓮常寺北遺跡 |
| 2. 立岡山古墳群 | 9. 老原遺跡 |
| 3. 太子山南麓遺跡 | 10. 斑鳩寺南遺跡 |
| 4. 立岡遺跡 | 11. 船遺跡 |
| 5. 立岡東遺跡 | 12. 船石田遺跡 |
| 6. 立岡南遺跡 | 13. 東保高田遺跡 |
| 7. 蓮常寺東遺跡 | 14. 東南遺跡 |

舟塚遺跡の調査（太子山南麓遺跡第2次調査）

1. 所在地

兵庫県揖保郡太子町鶴字船塚 212 番地

2. 調査機関

兵庫県揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課

三村修次 海野浩幸

4. 調査期間

平成 8 年12月19日～12月27日

5. 調査面積

330m²

6. 記録作成

遺構実測図 (1/20)、土層断面実測図 (1/20)、遺物実測図 (1/1)、国土地標記録

写真記録 (モノクロム/カラ-35m・カラ-リバーザ#35m・カラ-120mm)、航空写真 (カラ-4×5判)



第2図 調査位置図 (1/25,000 網干)

7. 調査に至る経過

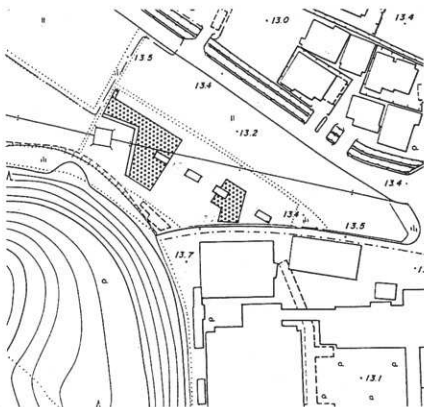
周知の遺跡である太子山南麓遺跡内において宅地造成が行なわれることになり、造成予定地のすぐ西側では平成5年度に関西電力の送電鉄塔建替えに伴う発掘調査（第1次調査）において、古墳時代後期の土坑、溝等の遺構を検出していることから、造成工事に先立ち確認調査を実施した。

確認調査の結果、第1次調査で検出した溝の延長線上でその続きと考えられる溝と、調査地東半部で住居址を検出したため、全面調査を実施した。

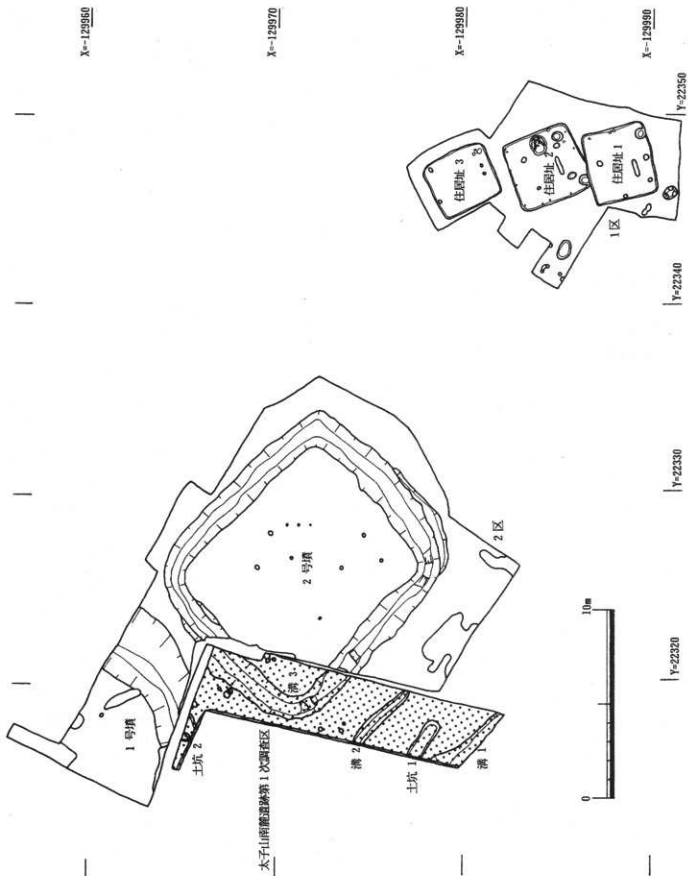
全面調査は東の住居址確認部分を1区、西の溝確認部分を2区とした。

8. 調査の概要

調査地東半部の1区で方形竪穴式住居址3棟、柱穴、土坑若干と、西半部の2区で円墳と考えられる周溝の一部と方墳跡、柱穴若干を検出した。



第3図 調査区設定図 (1/500)



第4図 遺構配置図

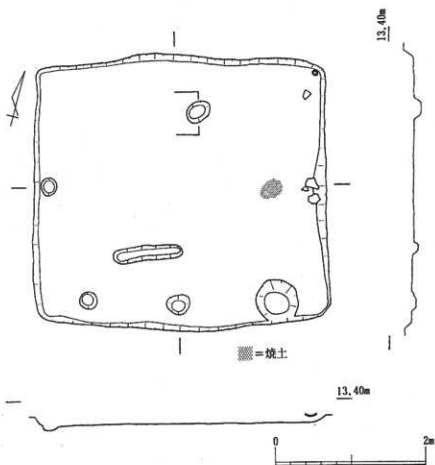
【住居址1】

1区の南側に位置し、規模は3.6m×3.9m、深さ12cmを測る方形竪穴式住居である。

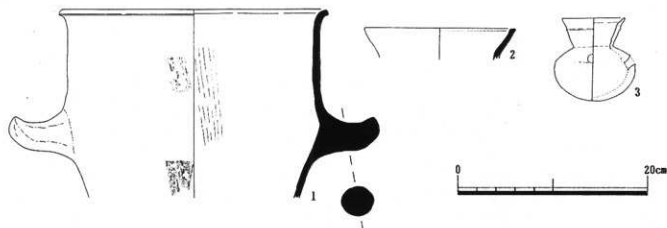
主柱穴は2本で、径15cm～27cm、深さ8cm、柱間2.25mを測る。南半に幅20cm、長さ82cm、深さ8cmを測る溝があり、間仕切りのためと考えられる。

東壁面中央付近で焼土面が検出された。

遺物は、土師器の甕・瓶、須恵器の椀等が出土した。



第5図 住居址1実測図



第6図 住居址1出土遺物実測図

表1 住居址1出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	調整	色調	胎土	焼成	備考
1	土師器 瓶	口径 28.0	外-ハク口 内-ヘラ削り	外-鈍い黄褐色 10YR7/2 内-暗灰色 N3	砂粒を多く含む	良好	外面口縁部の一部に焼付着
2	土師器 甕	口径 14.8	外-ヨコナデ 内-ヨコナデ 頸部ハケ目	外-暗灰色 10YR6/1 内-灰黄褐色 10YR6/2	砂粒を含む	良好	
3	須恵器 椀	口径 6.4 器高 8.9	外-ヨコナデ 底部へラ削り後ナデ 内-ヨコナデ	灰色 N6/1 ~5/1	白色砂粒を含む	堅緻	

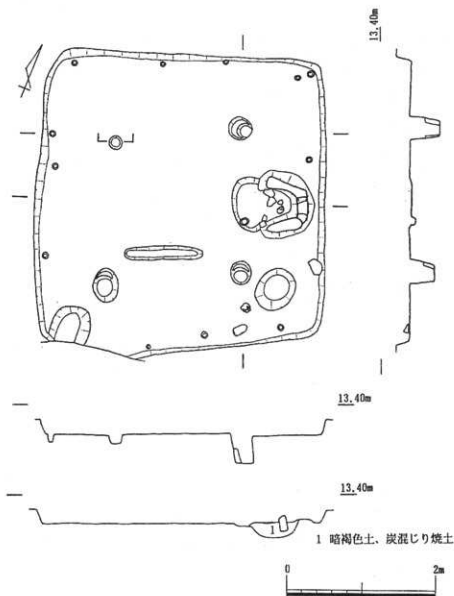
【住居址 2】

1 区の中央部に位置し、南西隅を住居址 1 に切られている。規模は3.6m×3.9m、深さ20cmを測る方形竪穴式住居である。

主柱穴は4本で、径20~45cm、深さ12cm~40cm、柱間は1.5m~1.6mを測る。側壁にそって径8cm、深さ5cm~10cmの小柱穴が70cm~1mの間隔で巡る。南半には住居址 1 と同じ様に幅18cm長さ1.1m、深さ4cmを測る間仕切りのためと考えられる溝がある。

東壁面中央に竈が設けられており、竈中央部には、支脚と考えられる角柱状の河原石が立てられていた。

遺物は、土師器の高坏・甃、須恵器の甃等が出土した。



第 7 図 住居址 2 実測図



第 8 図 住居址 2 出土遺物実測図

表 2 住居址 2 出土遺物観察表

№	器種	法量 (cm)	調整	色調	胎土	焼成	備考
1	土師器 高坏		摩耗のため不明	外—暗灰色~鈍い褐色 10YR4/1~7.5YR6/4 内—鈍い褐色 7.5YR6/4	砂粒を多く含む	良好	甃内出土
2	土師器 高坏	底径 9.8	摩耗のため不明	鈍い褐色 10YR6/3	砂粒を多く含む	良好	甃内出土

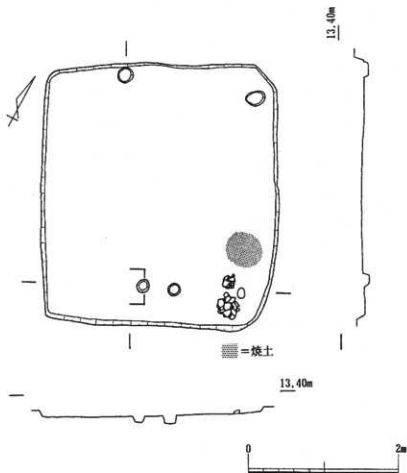
【住居址3】

1区の北側に位置し、規模は3m×3.3m、深さ10cmを測る方形竪穴式住居である。

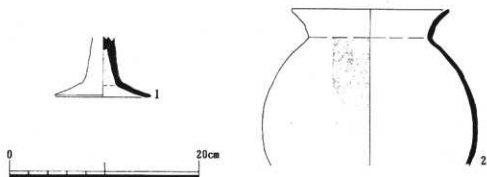
支柱穴は2本で、径20cm、深さ5cm～8cm、柱間2.63mを測る。

東壁面南よりで焼土面が検出された。

遺物は、土師器の高環・甕、須恵器の甕等が出土した。



第9図 住居址3実測図



第10図 住居址3出土遺物実測図

表3 住居址3出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	調整	色調	胎土	物成	備考
1	土師器 高環	底径 10.4	外-厚縁のため不明 内-へら削り	鈍い褐色 5YR7/4	雲母、砂粒を多く含む	良好	
2	土師器 甕	口径 16.6	外-ハケ目 口縁部コナダ 内-横方向へら削り 口縁部コナダ	外-鈍い黄褐色～灰黄褐色 10YR7/4～10YR5/2 内-鈍い黄褐色 10YR7/2	砂粒を多く含む	良好	

【1号墳】

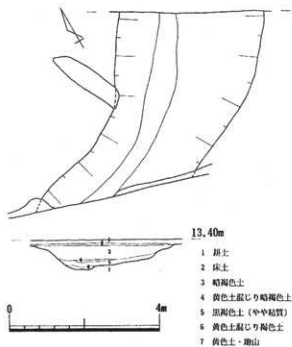
2区西端で周溝の一部を検出した。幅2.5m～3.8m、深さ65cmを測る。調査区外に延びるため、全体形は不明であるが、平面プランの状況から円形になるものと考えられる。

周溝内は上層から暗褐色土、黄色土混じり暗褐色土、黒褐色土、黄色土混じり褐色土の順で堆積していた。

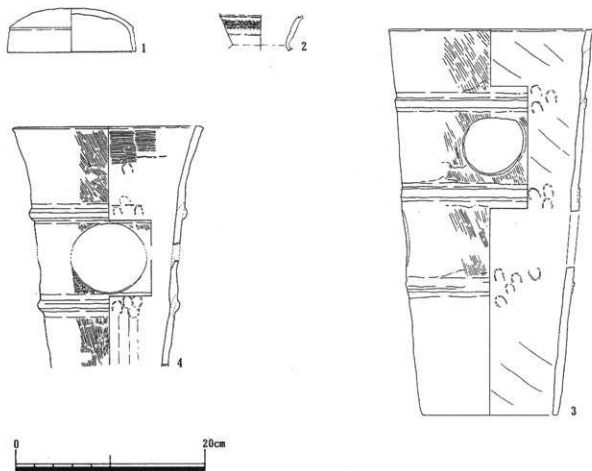
埋葬施設に関する遺構は検出されなかった。

遺物は、周溝埋土上層の暗褐色土層から須恵器の坏蓋・壺、円筒埴輪片等が出土した。

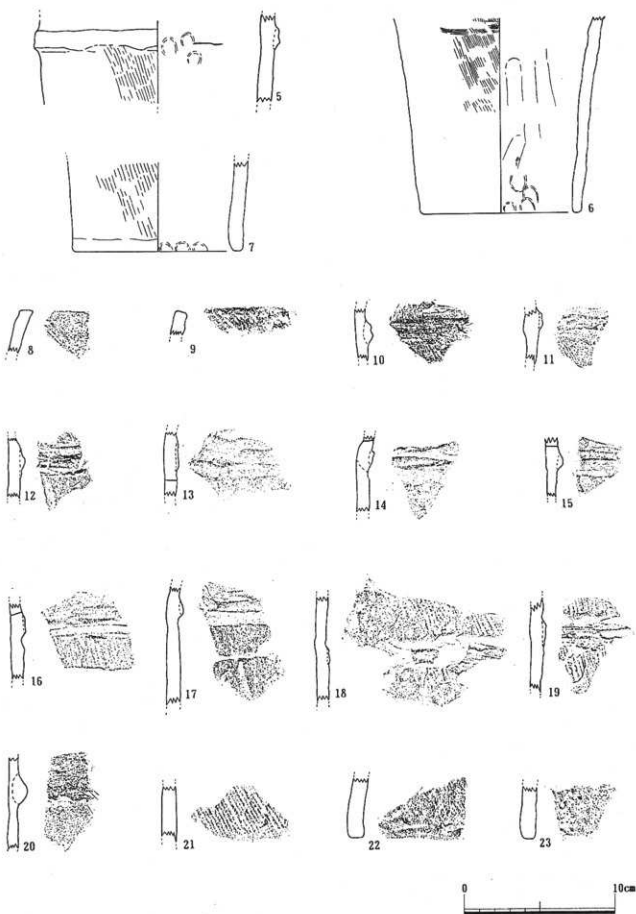
円筒埴輪は、ほとんどが胴部の小破片であったが、一個体を復元することが出来た。また、一般的な土師質の焼成のもの、須恵質状の焼成のもの、それぞれの中間の硬質な焼成のもの3タイプが認められる。



第11図 1号墳実測図



第12図 1号墳出土遺物実測図(1)



第13图 1号墳出土遺物実測図(2)

表 4 1号墳出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	調整	色調	胎土	焼成	備考
1	須恵器 坏器	口径 12.8 器高 4.6	外-ヨコナデ 天井部厚味へう削り 内-ヨコナデ	灰色 N6	白色微砂粒を含む	良好	
2	須恵器 壺		ヨコナデ	灰色 N6 ~N4	密	良好	縞線波状文を施す
3	埴輪	口径 20.4 底径 13.6 器高 40.1 透穴径 5.5~6	外-荒い左上りハケ目 口縁部ヨコナデ 凸部ヨコナデ 裾部ナデ 内-ナデ 凸部部附直上痕	外-浅黄褐色~褐色 7.5YR6/4~7.5YR7/6 内-褐色 7.5YR7/6	1~2mm の砂粒を含む	硬質	2段、3段目に円形透穴が施される 凸部は低く不厚壁、断面はくずれたM字状
4	埴輪	口径 18.6 透穴径 8.0	外-左上りハケ目 口縁部ヨコナデ 凸部ヨコナデ 内-ナデ 口縁部ヨコハケ目 凸部部附直上痕	外-明赤褐色~褐色 2.5YR6/6~2.5YR6/8 内-明赤褐色 2.5YR6/6	精良	硬質 須恵質状	円形透穴は2段目のみ確認 凸部断面は台形
5	埴輪		外-荒い左上りハケ目 凸部ヨコナデ 内-ナデ 凸部部附直上痕	褐色 5YR7/8	白色・赤色粒、砂粒を含む	軟質	凸部断面はM字状
6	埴輪	底径 10.4	外-左上りハケ目 基底部ナデ 内-ナデ 基底部部附直上痕	外-明赤褐色 5YR6/6 内-褐色 5YR6/6	精良	硬質 須恵質状	4の遺物と同一個体の可能性有り
7	埴輪	底径 11.0	外-荒い左上りハケ目 内-ナデ	褐色 5YR7/8	白色・赤色粒を含む	軟質	
8	埴輪		外-左上りハケ目 内-ナデ	褐色 5YR6/8	白色・赤色粒を多く含む	硬質	
9	埴輪		外-荒い左上りハケ目 内-ナデ	褐色 5YR7/8	白色粒をわずかに含む	やや軟質	端部に黒斑
10	埴輪		外-左上りハケ目 凸部ヨコナデ 内-指頭上痕	褐色 5YR6/8	白色粒、小石粒を多く含む	硬質	凸部断面はM字状
11	埴輪		外-荒い左上りハケ目 凸部ヨコナデ 内-指頭上痕	褐色 5YR6/8	白色・赤色粒を多く含む	硬質	凸部断面は台形
12	埴輪		外-細かい左上りハケ目 凸部ヨコナデ 内-指頭上痕	褐色 5YR7/6	精良 赤色粒を含む	硬質	凸部は低く、断面は山形
13	埴輪		厚壁のため不明	外-褐色 5YR7/8 内-褐色 7.5YR7/6	白色粒をわずかに含む	やや軟質	円形透穴 凸部は低く不厚壁、断面はくずれたM字状
14	埴輪		外-細かい左上りハケ目 凸部ヨコナデ 内-ナデ 凸部部附直上痕	褐色 5YR7/6	精良	硬質	円形透穴 凸部は低く不厚壁、断面は台形

No.	器種	法量 (cm)	調整	色調	胎土	焼成	備考
15	埴輪		外-細かい左上りハケ目 凸部部ヨコナデ 内-指頭瓦痕	褐色 5YR7/6	精良	硬質	凸部断面は台形
16	埴輪		外-荒い左上りハケ目 凸部部ヨコナデ 内-指頭瓦痕	褐色 5YR7/6	精良	硬質	円形透穴 凸部は低く不明瞭、断面は板状
17	埴輪		外-細かいタテハケ目 凸部部ヨコナデ 内-ナデ 凸部部指頭瓦痕	褐色 5YR7/6	精良	硬質	凸部は低く、断面は台形
18	埴輪		外-荒い左上りハケ目 凸部部ヨコナデ 内-ナデ 凸部部指頭瓦痕	褐色 7.5YR7/6	白色粒を含む	須恵質	凸部は低く不明瞭、断面はくずれたM字状
19	埴輪		外-荒い左上りハケ目 凸部部ヨコナデ 内-ナデ 凸部部指頭瓦痕	外-鈍い褐色 5YR6/4 内-黄褐色 7.5YR7/8	白色粒を含む	須恵質	凸部は低く不明瞭、断面はくずれたM字状
20	埴輪		外-荒い左上りハケ目 凸部部ヨコナデ 内-摩耗のため不明	褐色 7.5YR7/6	細砂、小石粒を含む	軟質	凸部は大きく、断面は台形
21	埴輪		外-荒い左上りハケ目 内-ナデ	褐色 5YR7/8	小石粒をわずかに含む	やや軟質	
22	埴輪		外-荒い左上りハケ目 基底端部ナデ 内-ナデ	褐色 5YR7/8	精良	やや軟質	
23	埴輪		外-荒い左上りハケ目 基底端部ナデ 内-ナデ	褐色 5YR7/8	精良	やや軟質	



第14図 第1次調査出土埴輪実測図

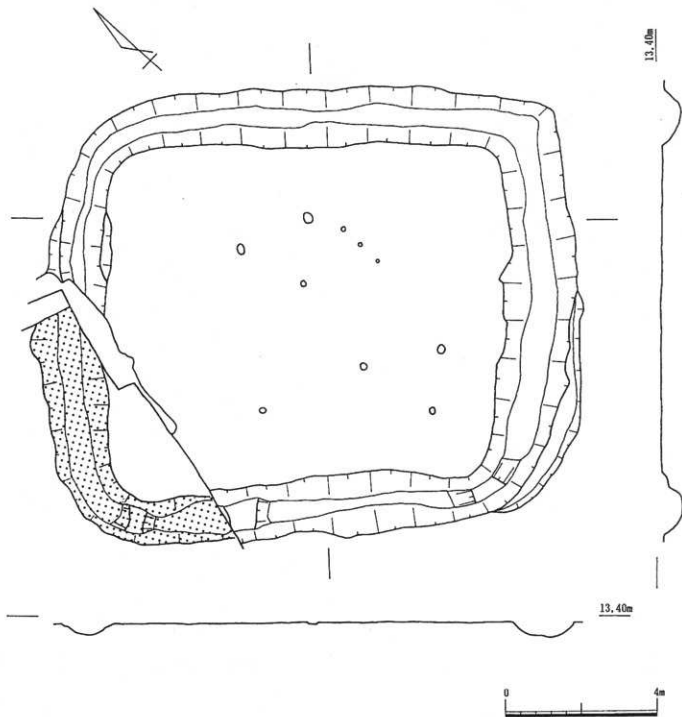
表5 第1次調査出土埴輪観察表

No.	法量 (cm)	調整	色調	胎土	焼成	備考
1		外-荒いヨコハケ目 内-ナデ	外-鈍い褐色 7.5YR6/4 内-黄褐色 7.5YR8/8	精良	須恵質	
2		外-荒い左上りハケ目 凸部部ヨコナデ 内-指頭瓦痕	外-鈍い褐色 5YR6/4 内-褐色 5YR7/8	精良	須恵質	凸部は低く、断面はM字状
3		外-ヨコナデ 内-指頭瓦痕	外-赤灰色 7.5R5/1 内-褐灰色 7.5R6/1	精良	須恵質	凸部は低く、断面はM字状

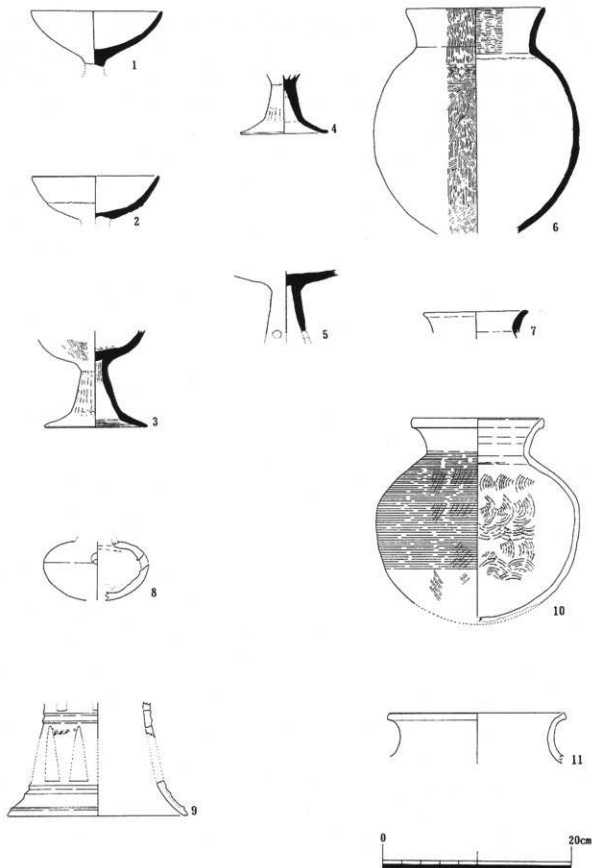
【2号墳】

1号墳の東で検出された方墳跡で、第1次調査で検出された溝3は一連のものである。規模は周溝の内側で9m×10.5mを測り、僅かに長方形を呈する。周溝は、幅1.4m~1.5m、深さ35cm~60cmを測り、周溝内は暗褐色土が堆積していた。また周溝内南辺には、第1次調査時の結果も合せて南東コーナー部、中央よりやや西寄り部、南西コーナー部の3箇所に土橋状の高まりが設けられているのが確認された。埋葬施設に関する遺構は検出されなかった。

遺物は、周溝内から土師器の高坏・甕、須恵器の器台・鉢・甕等が出土した。



第15図 2号墳実測図



第16图 2号填出土文物实测图

表 5 2号墳出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	調整	色調	胎土	焼成	備考
1	土師器 高杯	口径 13.6	摩耗のため不明	褐色 5YR6/3	微砂粒を含む	良好	
2	土師器 高杯	口径 13.2	摩耗のため不明	鈍い褐色 7.5YR7/4	細砂粒を多く含む	やや甘い	
3	土師器 高杯	底径 10.6	外一坏部ハケ目 脚部へラ磨き 脚部コナデ 内一坏部不明 脚部へラ磨り 脚部ハケ目	鈍い褐色 7.5YR7/4	微砂粒を含む	良好	脚部内面上部に絞り目あり
4	土師器 高杯	底径 9.0	摩耗のため不明	鈍い褐色 10YR7/3	細砂粒を多く含む	良好	
5	土師器 高杯		摩耗のため不明	鈍い褐色 7.5YR7/3	細砂粒を多く含む	良好	3方に凹孔を開ける
6	土師器 甕	口径 14.2	外一タテハケ目 内一脚部へラ磨り 口縁部ヨコハケ	鈍い褐色 10YR7/3	砂粒、小石を多く含む	良好	脚部外面下半に煤付着
7	土師器 甕	口径 10.0	摩耗のため不明	鈍い褐色 7.5YR6/4	微砂粒を含む		
8	須恵器 器		外一ヨコナデ 底面叩き後ナデ 内一ナデ	灰色 5Y7/1	微砂粒を含む	良好	
9	須恵器 器台	底径 15.0	ヨコナデ	灰色 8S ~ 8G	微砂粒を含む	堅緻	下段に三角形透かしと欄 描紋文を施す 上段の 透かしの形は不明
10	須恵器 甕	口径 13.4	外一平子叩き後カキ目 口縁部ヨコナデ 内一同心円叩き 口縁部ヨコナデ	灰色 8Y	微砂粒を含む	やや軟質	
11	須恵器 甕	口径 18.2	ヨコナデ	青灰色 5B	微砂粒を含む	良好	

9. まとめ

調査の結果、6世紀後半の竪穴式住居址3棟、同時期の円墳と考えられる古墳の周溝の一部（1号墳）と方墳跡（2号墳）、時期不明の柱穴及び土坑を確認した。また、調査地は、遺構の検出状況から後世の耕地化による削平を受けていることが判明した。住居址はいずれも方形で、ほぼ同規模である。住居址2からは比較的残りの良い竈が検出された。古墳は平地に築造された古墳として太子町内で初めての確認例であるが、残念ながら上面が完全に削平されており、上部構造や埋葬施設の形態を知る手掛かりになる遺構は検出されなかった。ただ、1号墳の周溝から円筒埴輪の破片数個体分が出土していることから、1号墳には埴輪が樹立されていたと推測される。

調査地のすぐ南に位置する立岡山の東から北東麓斜面には、横穴式石室を主体部を持つ円墳で構成される立岡山古墳群が、同じく6世紀後半に築造されており、立地の異なる古墳と住居の三者が隣接して営まれていたことは注目される。1号墳の詳細については、検出部分が周溝の一部であるため不明であるが、平地に立地し、埴輪を伴う古墳としては太子町内で初めての確認例であり、今後の周辺部の調査に期待される。

なお、今回の調査地は太子山南麓遺跡から分離し、新たに字名を取って「船塚遺跡」と呼称するものとした。

図 版

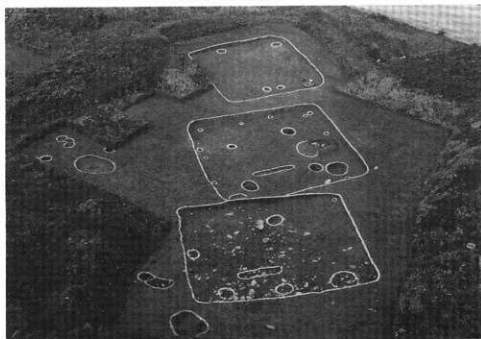




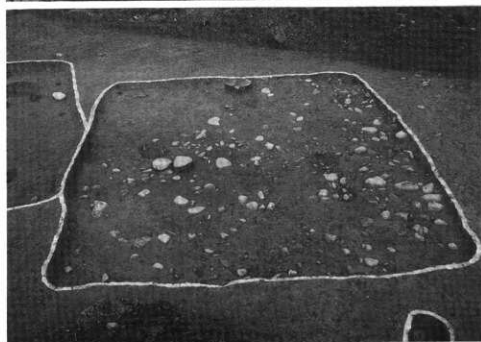
船塚遺跡全景（航空写真）



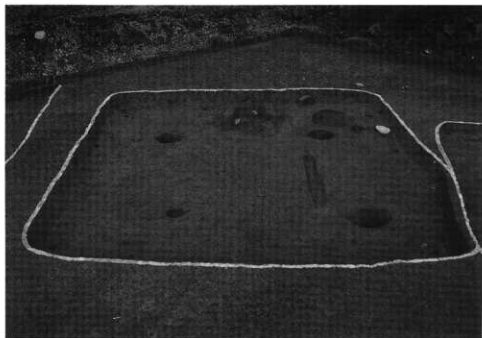
調査地全景 (南東から)



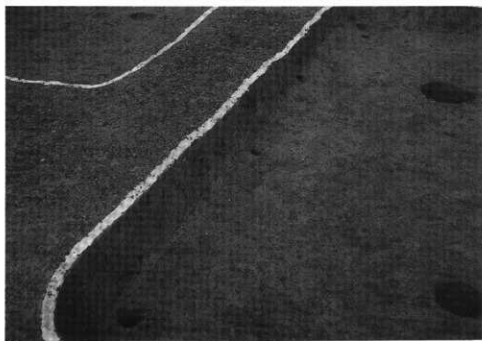
住居址 1～3 (南から)



住居址 1 (西から)



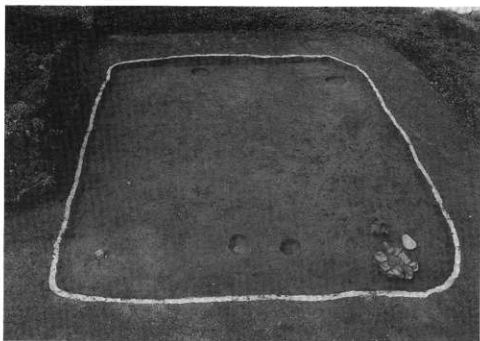
住居址 2 (西から)



住居址 2 側壁柱穴 (北壁面)



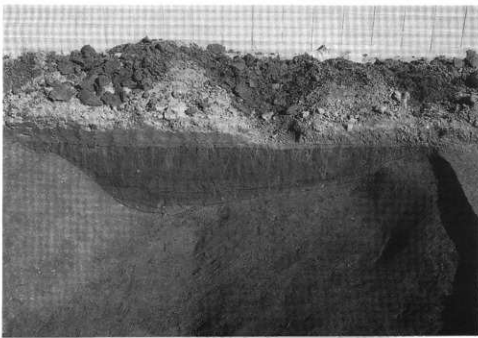
住居址 2 竈 (西から)



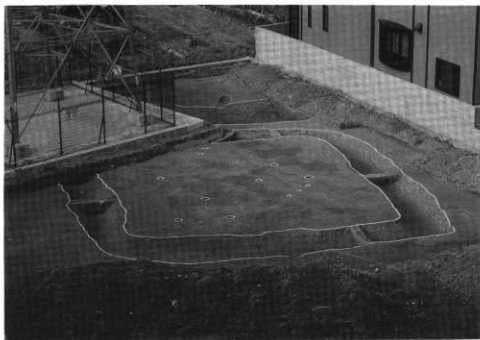
住居址 3 (南から)



1号墳 (西から)



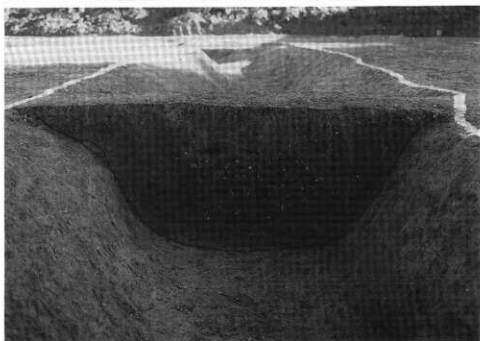
1号墳周溝土層断面 (南から)



2号墳 (東南から)



2号墳周溝南東コーナー土橋
(東から)



2号墳周溝土層断面

幸枝信子遺跡調査記録

ふりがな	ふなつかいせきのちょうさ(たいしやまなんろくいせき だい2じちょうさ)							
書名	船塚遺跡の調査(太子山南麓遺跡第2次調査)							
副書名	宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査							
巻次								
シリーズ名	太子町文化財資料							
シリーズ番号	第52集							
編著者名	三村修次 海野浩幸							
編集機関	太子町教育委員会							
所在地	〒671-1592 揖保郡太子町船塚1369-1 TEL. 0792-77-1010							
発行年月日	西暦 1998年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ふなつかいせき 船塚遺跡	ふなつかいせき 揖保郡太子町船塚 ふなつかいせき 字船塚	284645	450015	34度 49分 40秒	134度 34分 39秒	第1次調査 1993.10.1 ～1993.10.20 第2次調査 1996.12.19 ～1996.12.27	70m ² 330m ²	関西電力既設高圧線 鉄塔立替え 宅地造成工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
船塚遺跡	古墳 集落	古墳時代	古墳 2基 竪穴式住居址 3棟 柱穴、土坑		土師器(高坏・瓶・甕) 須恵器(坏・器台・壺・甕) 円筒埴輪		古墳はそれぞれ上部が完全に削平されており、埋葬施設を確認することはできなかった。 円筒埴輪は須恵質のものを含みうち1個体が完形復元出来た。	

